

堀池博巳さんを偲ぶ

田村俊明（紀伊國屋書店）

それは2019年8月に開催されたTP&D フォーラム2019でのことだった。仕事のため初日の発表に参加できず、夜遅くに会場のホテルに到着した直後、実行委員長の今野さんから今回のフォーラムにも参加を予定されていた堀池さんが突然倒れ、予断を許さない状況になっていることを伺った。ほんの2ヶ月前、研究会の席上で元気なお姿に接していたせいもあり、正直信じられない思いだった。その後しばらくして、倒れられて間もなく亡くなられたことを知った。あまりにも突然の出来事だった。

堀池さんと最初に出会ったのはいつだったかははっきりとは覚えていない。記録をたどってみると、堀池さんが初めてTP&D フォーラムに参加されたのは、2001年8月に京都で開催されたTP&D フォーラム2001である。TP&D フォーラムの関西の母体である日本図書館研究会情報組織化研究グループには、その前年ぐらいから参加されていたようである。私事ではあるが、1990年代の後半から仕事が忙しくなり、研究会へ参加することが少なくなっていた。仕事が一段落して再び研究会に参加しだしたのは2000年代半ばであり、ちょうど私が活動に参加していなかった時期に堀池さんが研究会に参加し始めたことになる。当時堀池さんは京都大学の大型計算機センターに勤務しており、図書館職員と教員がメンバーのほとんどを占める研究会の中であって、独自の立ち位置を占めていたように思う。当時行われていたFRBRの輪読会にも積極的に参加され、いつしか情報組織化研究グループになくてもならない人となっていた。第一印象は少し大人しめだが、いざ話してみると非常に気さくな人柄で、特に研究会後の懇親会の席上などでは、発表された内容に対して熱く意見を語る姿が印象的だった。京都大学を退職された後も大阪芸術大学の司書課程の非常勤講師として後進の育成にあたるなど、精力的に活動をされていた。

そんな堀池さんにTP&D フォーラム実行委員長の重責を担っていただいたのが、2017年8月に大阪で開催されたTP&D フォーラム2017である。会場となったホテルは2008年に私が実行委員長を務めた際に使用したホテルであったこともあり、設備や費用などについて当時いろいろと相談を受けた記憶がある。フォーラム自体は盛況のうちに終了したが、その後の論集の発行についてかなり苦勞をされていたことがはたからも伺えた。責任感の強い方だったこともあり、論集の発行が遅れたことについてかなり心を痛めておられたのではなかったかと思う。

お会いした当初はそれほど親しいわけではなかったが、堀池さんは10才以上も年下の私に対して気さくに話しかけてくださり、いつしか話す機会が多くなっていった。特にお酒が入った時の、饒舌で、楽しそうに話される姿を見るのが好きだった。「ねえ、田村さん」って語り掛けてくる口調は今でも鮮明に記憶に残っている。年齢的にもまだまだこれから色々な方面でご活躍することができたのにとすると、惜別の念に堪えない。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。